

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### 1. 学生の確保の見通し

#### ア 定員充足の見込み

音楽芸術表現学科は、学生募集を停止する既設の作曲学科（入学定員 25 名）、器楽学科（入学定員 100 名、編入学定員 20 名）、声楽学科（入学定員 50 名、編入学定員 15 名）の定員数を継承して、入学定員を 175 名、編入学定員を 35 名と定める。

音楽芸術表現学科の定員設定に際しては、本学科において養成する人材像に基づき、社会的、地域的な需要を踏まえ、教育・研究活動を十分に行うことができること、かつ私立大学として中長期的に財務状況が安定すること、そして下記の根拠により定員が充足することを確認した。

#### 【基礎となる 3 学科の実績に基づく定員充足の見込み】

音楽芸術表現学科の基礎となる作曲学科、器楽学科、声楽学科（以下「基礎となる 3 学科」という）の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等は「基礎となる 3 学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等の過去 5 年間の推移」（資料 1）<sup>1</sup>としてまとめたが、これら 3 学科を合計した過去 5 年間の推移は以下のとおりである<sup>2</sup>。

<表 1：基礎となる 3 学科合計の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等推移>

項目		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
基礎となる 3 学科合計 (単位：人)	志願者数	342	362	298	266	289
	受験者数	337	359	297	264	289
	合格者数	294	323	264	242	242
	入学者数	194	223	185	187	180
	入学定員	175	175	175	175	175
入学定員超過率 (単位：倍)		(1.10)	(1.27)	(1.05)	(1.06)	(1.02)

※入学定員超過率は、小数点以下第 3 位を切捨て

基礎となる 3 学科を合計した過去 5 年間の平均入学定員超過率は 1.10 倍であり、かつ入学者数は入学定員を欠かすことなく充足している。なお、今回の学科の設置により、基礎となる 3 学科のうち、作曲学科の定員未充足、器楽学科の定員超過（ともに設置計画履行状況等調査<sup>3</sup>において改善意見として指摘を受けている事項）の状況は改善される。

#### 【基礎となる 3 学科の志願者数の実績と 18 歳人口の相関に基づく定員充足の見込み】

基礎となる 3 学科の志願者数と 18 歳人口が相関しているかを、過去 10 年間をサンプルとして調べた。下表は、基礎となる 3 学科の過去 10 年間の志願者数である。

<sup>1</sup> 資料 1：基礎となる 3 学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等の過去 5 年間の推移

<sup>2</sup> 平成 24 年度から平成 27 年度の入学者数は学校基本調査の数値と同一である。平成 28 年度は平成 28 年 4 月 1 日現在の速報値である。

<sup>3</sup> 平成 26 年度に大学院音楽研究科に博士後期課程を新たに設置しており、当該課程が完成年度を迎える平成 28 年度まで設置計画履行状況等調査を提出している。

<表 2：基礎となる 3 学科合計の志願者数の推移（平成 19 年度～平成 28 年度）>

基礎となる 3 学科 合計の志願者数 (単位：人)	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	454	427	434	417	383
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
	342	362	298	266	289

18 歳人口<sup>4</sup>は平成 4 年度の約 205 万人をピークとして減少し、平成 20 年度に 124 万人となった。その後横ばいの状態となるが、少しずつ下降線をたどっている。過去 10 年間の 18 歳人口は以下のとおりである。

<表 3：18 歳人口の推移（平成 19 年度～平成 28 年度）>

18 歳人口（概数） (単位：人)	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	1,300,000	1,240,000	1,210,000	1,220,000	1,200,000
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
	1,190,000	1,230,000	1,180,000	1,200,000	1,190,000

表 2 と表 3 に関連性があるかどうかを相関係数<sup>5</sup>によって求めたところ、数値は 0.713 となり、強い相関があることが分かった。そこで、平成 29 年度以降の予測 18 歳人口をもとに予測志願者数を算出<sup>6</sup>すると以下のとおりとなる。

<表 4：予測される 18 歳人口と志願者数（平成 29 年度～平成 32 年度）>

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
予測 18 歳人口（概数）(単位：人)	1,200,000	1,180,000	1,170,000	1,170,000
予測志願者数（単位：人）	312	306	304	304

※予測志願者数は、小数点以下を切捨て

さらに、予測志願者数から予測入学者数を算出<sup>7</sup>すると表 5 のとおりとなり、音楽芸術表現学科を開設する平成 29 年度から完成年度となる平成 32 年度までの期間、安定的に学生の確保を図ることができる見通しとなった。

<表 5：予測される志願者数と入学者数（平成 29 年度～平成 32 年度）>

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
予測志願者数（単位：人）	312	306	304	304
予測入学者数（単位：人）	194	190	189	189

※予測入学者数は、小数点以下を切捨て

<sup>4</sup> 資料 2：18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移（出典：内閣府総合科学技術・イノベーション会議第 1 回基本計画専門調査会（平成 26 年 12 月 4 日）資料）

<sup>5</sup> 相関係数は 2 つの値の関連性を調べる目安となる値のこと。-1.0～1.0 の範囲に値を取り、絶対値が 1 に近いほど関連性が強く、0 に近いほど関連性が弱いとされる。一般的に 0.7 以上は「強い相関がある」とされている。なお、関連性をより正確に測るため、過去 10 年間で対象サンプルとした。

<sup>6</sup> 過去 5 年間（平成 24 年度～平成 28 年度）の志願者数の平均（311.4 人）を同期間の 18 歳人口の平均（1,198,000 人）で除して小数第 6 位で四捨五入して得た数値（0.00026）を、平成 29 年度以降の予測 18 歳人口に乗じた。

<sup>7</sup> 過去 5 年間（平成 24 年度～平成 28 年度）の入学者数の平均（193.8 人）を同期間の志願者数の平均（311.4 人）で除して小数第 5 位で四捨五入して得た数値（0.6224）を、平成 29 年度以降の予測志願者数に乗じた。

編入学者数について、基礎となる3学科合計の過去5年間の推移は以下のとおりである。

<表6：基礎となる3学科合計の編入学者数（平成24年度～平成28年度）>

編入学者数（うち併設する短期大学部出身者数）（単位：人）	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	52 (47)	34 (34)	23 (18)	23 (20)	30 (28)

過去5年間の平均編入学者数は32.4人となり、定員充足率は92.6%と未充足の状況である。特に、平成26年度、平成27年度と減少したが、平成28年度は増加に転じている。併設する短期大学部からの編入学者数が多いことが特徴となっている。

<表7：併設する短期大学部からの編入学者数と、卒業生数に占める編入学者数の割合

（平成24年度～平成28年度）>

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
併設する短期大学部からの編入学者数（単位：人）	47	34	18	20	28
併設する短期大学部の卒業生数（単位：人）	159	126	98	91	96
編入学者数の割合（%）	29.6	27.0	18.4	22.0	29.2

※編入学者数の割合（%）は、小数点以下第2位を四捨五入

併設する短期大学部からの編入学者数は、短期大学部の学生数の減少と編入学希望者の減少により、平成26年度は大幅に減少したが、その後、編入学者数と、卒業生数に占める編入学者数の割合はともに増加している。

また、他短期大学等からの編入学者を積極的に受け入れることにより、編入学定員の確保は可能になると判断している。

#### 【受験対象者へのアンケートの結果に基づく定員充足の見込み】

音楽芸術表現学科の開設にあたっては、平成27年12月から平成28年3月にかけて、受験対象となる高校1・2年生に対して「音楽芸術表現学科 開設に関するアンケート」<sup>8</sup>を実施した。音楽科や音楽コースに在籍する高校生（神奈川県4校、東京都1校、埼玉県1校）、本学のオープンキャンパスや講習会に参加した高校生、本学の附属音楽教室に在籍する高校生等、音楽大学や本学に少なからず関心のある生徒、計544人から回答を得た<sup>9</sup>。

詳細は資料3、資料4として添付するが、問7「音楽芸術表現学科について、興味・関心を持ちましたか」で、回答者の27.4%が「興味・関心を持った」、47.5%が「やや興味・関心を持った」と、合計して75%近い高校生が音楽芸術表現学科へ興味・関心を示していることが分かった。さらに、問8「現時点で、音楽芸術表現学科を受験したいと思いますか」では、「受験したい（40人）」「受験を検討したい（53人）」「受験は未定だが関心があ

<sup>8</sup> 資料3：音楽芸術表現学科 開設に関するアンケート調査票

<sup>9</sup> 資料4：音楽芸術表現学科 開設に関するアンケート集計結果

る(157人)」と回答し、回答者の50%近くが受験への意識を持っていることが分かった。このうち、高校1年生は103人、高校2年生は132人で、両学年からの支持を得た。

今回のアンケートでは、神奈川県、埼玉県、東京都在住の高校生からの回答が全体の81.4%を占める。実際の同都県からの入学者の割合が46.4%と高い数値となっていることから、このアンケートの結果は入学者数の予測において有効な数値であると考えられる。

さらに、本学は全国から入学者を受け入れていることから<sup>10</sup>、音楽芸術表現学科に興味・関心を持つ、または受験したいと考える者は全国に潜在していることが予測される。すなわち、全国で学生確保に向けた取り組みを積極的に行うことにより、定員は充足するものと考えられる。

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

定員充足の根拠としては、以下のデータを使用した。

資料1は、新しく開設する音楽芸術表現学科の基礎となる3つの学科(作曲学科、器楽学科、声楽学科)の過去5年間(平成24年度～平成28年度)の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員、入学定員超過率を示している。

資料2は、18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移を示しており、18歳人口の数値を使用した。

資料3と資料4は、本学が独自に実施した音楽芸術表現学科の開設に関するアンケート調査票と集計結果である。音楽科や音楽コースに在籍する高校生(神奈川県4校、東京都1校、埼玉県1校)、本学のオープンキャンパスや講習会に参加した高校生、本学の附属音楽教室に在籍する高校生等、開設年度以降に受験を迎える高校生等計544人から回答を得た。設問内容は、一般的な設問として5問(学年、性別、住まい、卒業後に希望する進路、卒業後の興味のある分野)、音楽芸術表現学科に関する設問として4問(人材養成像に魅力を感じるか、興味・関心があるか、受験したいか、進学で何を重視するか)を設定した。

資料5は、過去5年間(平成24年度～平成28年度)の、基礎となる3学科の入学者数を都道府県別にまとめた資料である。

## ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、第一に、私立大学として中長期的に財務状況が安定するかどうか、第二に、他の音楽大学等における学生納付金の状況がどうかを勘案し検討した。

第一については、音楽芸術表現学科の定員に基づき、財務に関する中長期計画として資金収支の状況、事業活動収支の状況を作成し、完成年度を迎える平成32年度まで収支のバランスが適切であることを確認している。

---

<sup>10</sup> 資料5：都道府県別 入学者数推移(作曲学科・器楽学科・声楽学科)

第二については、本学を除く音楽大学または音楽学科・コース等を設置する 31 大学の学生納付金の状況を比較した<sup>11</sup>。

その結果、音楽芸術表現学科の学生納付金は入学金を 250 千円、授業料を 1,340 千円、施設費を 650 千円、初年度納入金は 2,240 千円、2 年次以降は 1,990 千円とする。この学生納付金は、基礎となる 3 学科と同額である。

## 2. 学生確保に向けた具体的な取組状況

### ① 講習会・説明会の実施

本学内で実施する夏期講習会（8 月）、受験講習会（9 月・10 月）、冬期講習会（12 月）、春期講習会（3 月）、ならびに全国の都市で 5 月から 7 月にかけて実施する受験講習会（平成 28 年度は 31 都市で開催予定）において音楽の実技や理論を中心としたレッスンをを行うことで、受験に向けた指導と音楽大学への進学意欲の向上を狙う。また年間 10 回以上のオープンキャンパスを開催し、本学の施設見学やレッスン見学、体験レッスン等を実施する。上述した各種講習会及びオープンキャンパスでは、進学希望者個々の要望に応じて個人レッスンを実施し、また個別受験相談に対応する。

ほかにも、進学相談会や高校訪問等を行うことで、学生の確保に努めていく。

### ② パンフレットの作成・配付

本学のガイドブックは、4 月下旬に作成し、学内外に向けて PR 活動を行う。ガイドブックは、資料希望者や講習会・説明会参加者だけではなく、全国の音楽指導者や学校、楽器店等にも送付する。さらに英文のパンフレットも作成し、留学生の受け入れも積極的に行う。

### ③ インターネットにおける取り組み

#### a. 大学ウェブサイトの活用

本学のウェブサイトにおいて進学希望者やその保護者に対して、講習会やオープンキャンパス情報、入試情報等、学生確保に向けた情報発信を頻繁に行う。また、PC よりもスマートフォンから本学ウェブサイトアクセスする割合が高いことから、スマートフォンでも適切に情報が取得できるサイト構造にする。さらに、英語のウェブサイトも開設し、音楽芸術表現学科の情報を発信していく。

#### b. その他インターネット媒体の活用

本学では Facebook や Line@ のアカウントを所有しており、ウェブサイトからだけではなく、これらの媒体においても同時に情報発信することで、受験生に向けた広報活動を強化する。また、インターネット上の音楽大学進学情報サイトやリスティング広告等も積極的に活用し、講習会や説明会などへの参加者数や本学の資料

<sup>11</sup> 資料 6：音楽大学等学生納付金等一覧

請求数の増加に努めていく。

#### ④ 編入学者の確保に向けた取り組み

併設する短期大学部からの編入学者を確保するため、対象となる学生に対しての学内説明会を行う。また、学外からの編入学者を確保するため、音楽分野の教育課程を有する短期大学、過去に編入学の実績のある短期大学等を積極的に訪問し、編入学に関する説明を行う。

#### ⑤ FD 研修会を通じた教員等への周知

4月と9月に本学の教員を対象としたFD合同研修会を行っている。この研修会では授業改善に関する内容や、本学が新たに取り組む内容を中心に情報共有し、今後の授業やレッスンの質の向上を全学的に推進していく活動である。

4月に行ったFD研修会では、音楽芸術表現学科についての概要を説明し、教職員間で情報を共有した。9月に行うFD研修会では、さらに具体的な指導法など授業に関する内容にも触れていく。このFD研修会は、大学院、併設する短期大学部と合同で開催しており、例年、参加教員は延べ300人を超える。FD研修会に参加した教員から、受験生に適切な内容が伝わることを期待される。

#### ⑥ その他の広報活動

音楽専門雑誌等に情報を掲載し、講習会や説明会等の開催について積極的に広報することで、学生の確保に努める。

なお広報活動を行う場合、届出前のPR活動については、「設置届出予定」などと明記するよう徹底する。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### 1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は人材養成目的、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、学修成果を以下のとおり設定している。

#### ① 人材養成目的

音楽芸術表現学科は、国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創造できる、または舞台等で実践的に活躍できる人材を育成するための専門教育を行う。

#### ② アドミッションポリシー

本学では、「礼・節・技の人間教育」を建学の精神とし、各々の専門分野における実践的な能力を備えた人材を育成することを目的としています。建学の精神と教育目的を理解し、基礎的な演奏技術や専門知識だけではなく、基礎的な学力と豊かな人間性を併せ持ち、将来、音楽人として社会に貢献することが期待できる資質・能力を有する人材を受け入れます。

### ③ カリキュラムポリシー

本学は、建学の精神に基づき教育目的を達成するために、各コースの教育課程を「専門科目」、「外国語科目」、「共通科目」の3領域に区分して編成し実施しています。コースごとに定められたカリキュラムを4年間履修することにより、幅広い専門知識、高い技能や応用能力に加えて、社会人として求められる汎用的能力も学修成果として獲得できるように配慮されています。また、卒業後の進路や将来の目標を考える指針として、キャリア教育科目を適切に位置づけています。

### ④ ディプロマポリシー

本学は、所定のカリキュラムにおいて厳格な成績評価のもとに単位を修得した者について、各コースの専門的学修成果および汎用的学修成果を獲得し、建学の精神に基づき教育目的を達成し、社会に貢献できる人材であると認め、各々の専門分野に応じて学士（音楽）または学士（芸術）の学位を授与します。

### ⑤ 学修成果

本学で4年間学ぶことにより、幅広い専門知識、高い技能や応用能力に加えて、社会人として求められる汎用的能力も学修成果として獲得することができます。この学修成果をもとに、学士として、生涯にわたって芸術とかかわることにより、広い視野と高い識見ならびに強い向上心をもった豊かな社会生活を送ることが期待できます。

なお、音楽芸術表現学科において獲得できる専門的能力及び汎用的能力は以下のとおり設定されている。

#### <専門的能力>

- ・基礎力：継続的訓練を通して、ソルフェージュ能力等、音楽の基礎力を高めることができる。
- ・技術力：徹底した実技指導を通して、各個人の技術力を高めることができる。
- ・専門知識：音楽理論や音楽史等の学修を通して、作曲家や作品についての理解を深め、専門分野の表現に生かすことができる。
- ・表現力：さまざまな演奏形態を専門的に学び、専門分野における自らの表現力を高めることができる。

#### <汎用的能力>

- ・コミュニケーション能力：専門科目の授業やレッスン、および共通科目の授業等を通じて人間関係の形成を学び、社会人として必要な自己表現力と他者理解力を養うことができる。チームワーク及びリーダーシップについても理解を深め、発揮することができる。
- ・表現力及び論理的思考力：共通科目を通じて、論理的な文章の読み方、書き方を学ぶ

とともに思考力が身に付く。日本語や外国語で自分の意見をわかりやすく表現し、伝えることができる。

- ・情報活用能力：情報を的確に収集・分析・理解し、活用・管理することができる。
- ・課題解決力：多角的な考察をもとに現状を分析整理し、問題や課題を発見するとともに、目標を設定し論理的にこれらを解決することができる。
- ・創造的思考力：専門的能力と汎用的能力とを結び付け、獲得した知識・技能・態度等を活用し、創造的な思考力を発揮することができる。

## 2. 上記「1」が社会的、地域的な人材需要の動向等をふまえたものであることの客観的な根拠

産業界で求められている人材ニーズを把握することと、産業界から期待されている大学教育の在り方と大学が取り組むべき施策を把握する目的で、「産業界の人材ニーズ調査」を実施し、平成 26 年 1 月に報告書としてまとめた<sup>12</sup>。

このニーズ調査において、産業界が最も大学教育に期待する項目は、「問題解決力や課題解決力を修得させて欲しい」であった<sup>13</sup>。本学では学修成果を定めており、獲得できる汎用的能力として「課題解決力」を設定している。他にも「専門分野の知識をしっかりと修得させて欲しい」、「チームを組ませて特定の課題に取り組む経験を積ませて欲しい」が大学教育に期待していることとして挙げられたが、それらも本学の学修成果として、「技術力」、「専門知識」、「アンサンブル能力」、「コミュニケーション能力」を設定し、対応ができています。本学はこのような学修成果の獲得できることを目的に教育課程を編成しているため、本学の教育は、社会が求める人材需要に応える内容であることがいえる。

---

<sup>12</sup> 卒業生の就職先などへ調査票を 624 件郵送し、126 件から回答があった。本学は関東山梨地域大学グループとして、文部科学省平成 24 年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に採択され（事業年度：平成 24 年度～平成 25 年度）、その取り組みを一層推進するために本学のキャリア支援センター（現キャリアセンター）が調査を実施した。

<sup>13</sup> 資料 7：【3】大学教育に関して「1）大学教育に期待すること」



**【基礎となる3学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等の過去5年間の推移】**

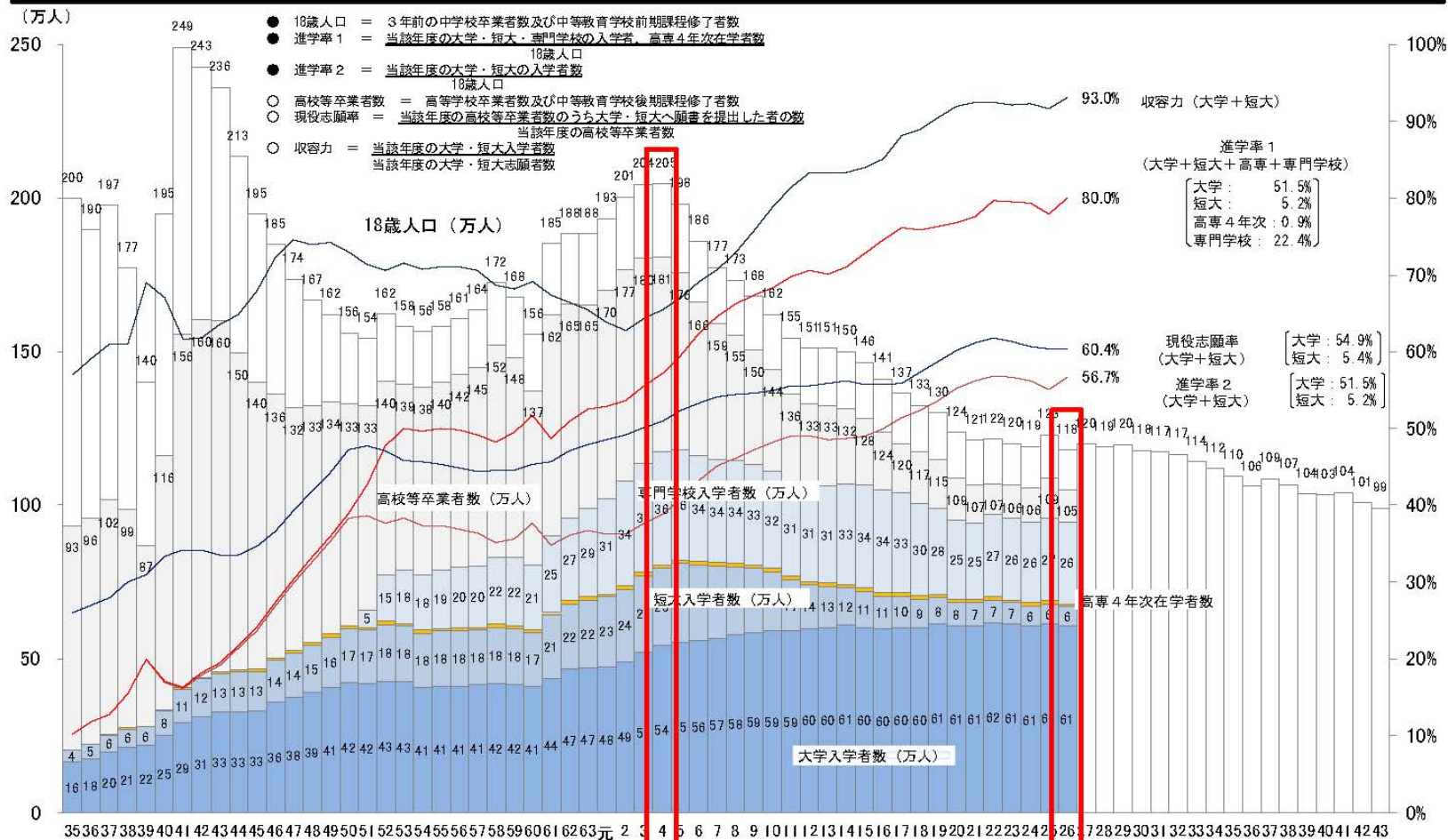
(単位:人)

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
作曲学科	志願者数	33	23	18	18	18
	受験者数	32	21	18	18	18
	合格者数	26	19	16	17	15
	入学者数	22	14	11	14	12
	入学定員	25	25	25	25	25
	入学定員超過率	(0.88)	(0.56)	(0.44)	(0.56)	(0.48)
器楽学科	志願者数	246	246	209	195	207
	受験者数	243	245	208	193	207
	合格者数	216	220	185	175	169
	入学者数	146	162	135	134	135
	入学定員	100	100	100	100	100
	入学定員超過率	(1.46)	(1.62)	(1.35)	(1.34)	(1.35)
声楽学科	志願者数	63	93	71	53	64
	受験者数	62	93	71	53	64
	合格者数	52	84	63	50	58
	入学者数	26	47	39	39	33
	入学定員	50	50	50	50	50
	入学定員超過率	(0.52)	(0.94)	(0.78)	(0.78)	(0.66)
合計	志願者数	342	362	298	266	289
	受験者数	337	359	297	264	289
	合格者数	294	323	264	242	242
	入学者数	194	223	185	187	180
	入学定員	175	175	175	175	175
	入学定員超過率	(1.10)	(1.27)	(1.05)	(1.06)	(1.02)

※入学定員超過率(単位:倍)は、小数点以下第3位を切捨て

# 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移 科学技術イノベーション人材の育成・流動化

- 18歳人口は、平成21～32年頃までほぼ横ばいで推移するが、平成33年頃から減少することが予測されている。(18歳人口について、平成4年度：205万人→平成26年度：118万人)
- 高等教育機関への進学率は、ここ数年頭打ち。



出典：文部科学省作成資料を基に、内閣府作成

昭和音楽大学（神奈川県川崎市麻生区）は、平成29年4月、音楽学部の中に、「音楽芸術表現学科」を新たに開設する予定です(※)。

この学科は、「国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創造できる、または舞台等で実践的に活躍できる人材を育成する」ことを目的とし、作曲・音楽デザイン、サウンドプロデュース、指揮、ピアノミュージッククリエイター、ピアノ指導者、ピアノ演奏家Ⅰ・Ⅱ、オルガン、電子オルガン、弦・管・打楽器、ウインドシンフォニー、弦・管・打楽器演奏家Ⅰ・Ⅱ、ジャズ、ポピュラー音楽、声楽の幅広い全16コースを開講して、主専攻の専門分野をしっかりと学びながら、他分野の科目も選択できるカリキュラムを編成する予定です。

そこで、平成29年度以降に進学時期を迎える皆さまからご意見をお聞きし、新しい学科の教育内容への参考にしたいと考えています。無記名式ですので、率直なご意見をご記入ください。

ご回答いただいた内容は、音楽芸術表現学科の開設に関する資料として活用し、他の用途に用いることはありません。

※音楽芸術表現学科は構想中のため、今後変更となる場合があります。

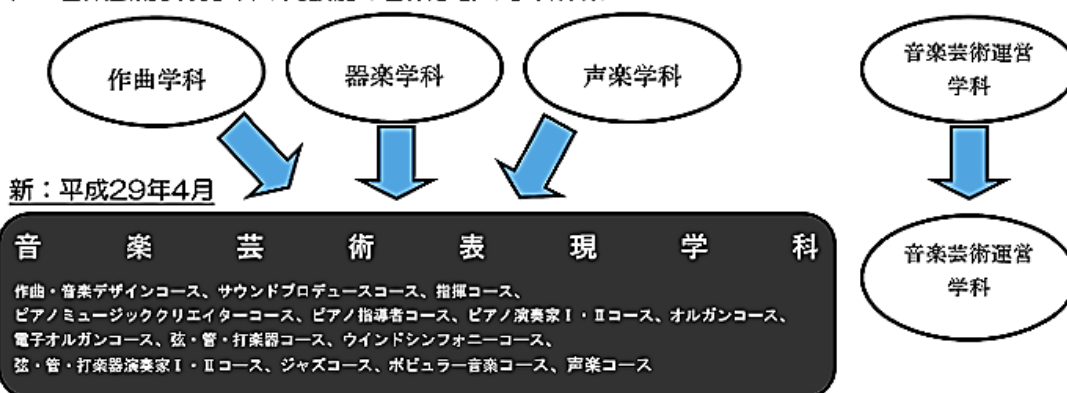
## 昭和音楽大学 音楽学部 音楽芸術表現学科 開設に関するアンケート

### 【一般的なご質問】

- 問1 あなたの学年を教えてください。 1. 高校1年生 2. 高校2年生 3. その他
- 問2 あなたの性別を教えてください。 1. 男性 2. 女性
- 問3 あなたのお住まいを教えてください。( 都・道・府・県 )
- 問4 高校卒業後に希望する進路について教えてください。選択肢の中から、あてはまるもの全てに○をつけてください。  
1. 大学（4年制）への進学 2. 短期大学への進学 3. 専門学校への進学  
4. 就職 5. その他（ ）
- 問5 高校卒業後の進学を考える際、現時点でのあなたの興味のある分野を教えてください。選択肢の中から、あてはまるもの全てに○をつけてください。  
1. 文学関係 2. 教育学・保育学関係 3. 法学関係 4. 経済学関係  
5. 社会学・社会福祉学関係 6. 理学関係 7. 工学関係 8. 農学関係  
9. 獣医学関係 10. 医学関係 11. 歯学関係 12. 薬学関係  
13. 家政関係 14. 美術関係 15. 音楽関係 16. 体育関係  
17. 保健衛生学関係(看護・リハビリテーション) 18. その他（ ）

## 昭和音楽大学 音楽学部 音楽芸術表現学科（平成29年4月開設予定）

旧：音楽芸術表現学科の開設前の音楽学部の学科体系



### 【音楽芸術表現学科の概要】

開設場所： 神奈川県川崎市麻生区(小田急線「新百合ヶ丘」駅)【南校舎】徒歩4分、【北校舎】徒歩1分

就業年限： 4年

入学定員： 175名

学 位： 学士(音楽)

養成する人材像： 国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創造できる、または舞台等で実践的に活躍できる人材を育成する

新しい学科の特長： 主専攻の専門分野をしっかりと学びながら、他分野の科目も選択できるカリキュラム



# 「昭和音楽大学 音楽学部 音楽芸術表現学科 開設に関するアンケート」集計結果

実施日時：平成27年12月～平成28年3月

対象者：音楽系高等学校在校生、講習会・オープンキャンパス参加者、附属音楽教室在籍者

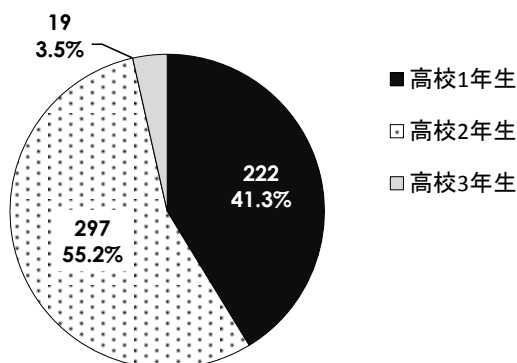
音楽系高等学校在校生	A高校	68名
	B高校	73名
	C高校	16名
	D高校	45名
	E高校	70名
	F高校	23名
冬期オープンキャンパス（12月）参加者		34名
冬期講習会（12月）参加者		60名
春期オープンキャンパス（3月）参加者		72名
春期受験講習会（3月）参加者		33名
附属音楽教室 在籍者		50名
<b>計</b>		<b>544名</b>

## 【回答結果】

※各設問の未回答者は集計から除く

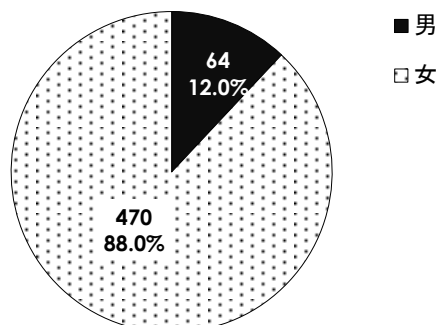
問1：あなたの学年を教えてください。

設問回答率：98.9%



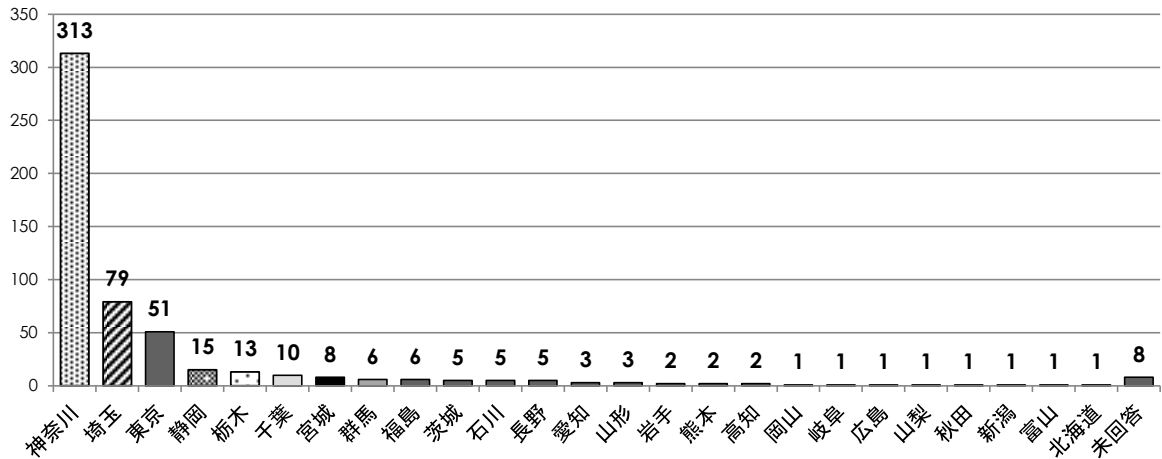
問2：あなたの性別を教えてください。

設問回答率：98.2%



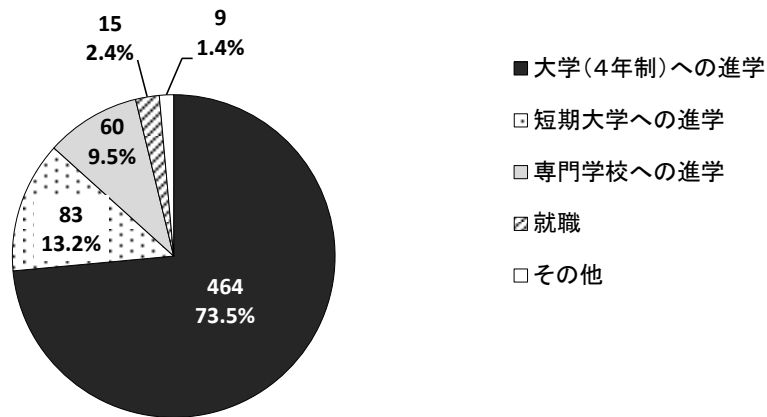
**問3：あなたのお住まいを教えてください。**

設問回答率：98.5%



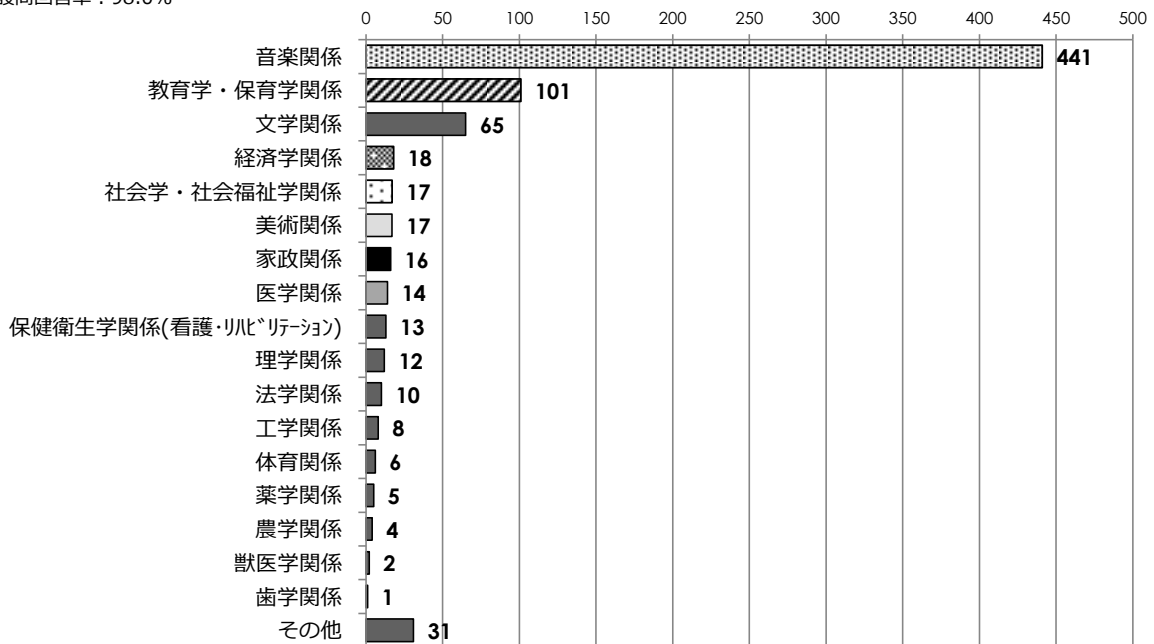
**問4：高校卒業後に希望する進路について教えてください。**

設問回答率：98.5%



**問5：高校卒業後の進学を考える際、現時点でのあなたの興味のある分野を教えてください。**

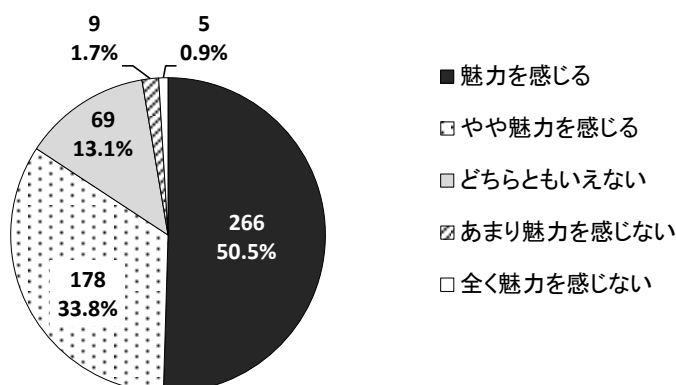
設問回答率：98.0%



問6：「音楽芸術表現学科」では、主専攻の専門分野をしっかりと学びながら、他分野の科目も選択できるカリキュラムを編成予定です。下記の設問について、あてはまるもの一つを選択してください。

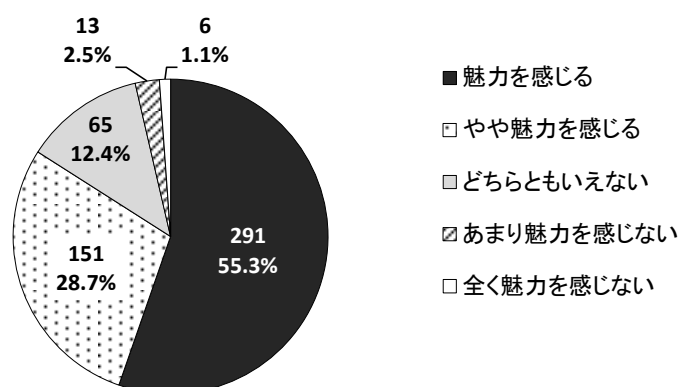
① 国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創造できるような学修ができる点

設問回答率：96.9%



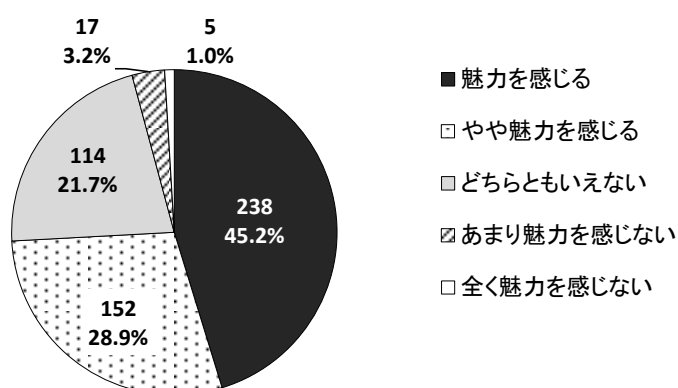
② 舞台等で実践的に活躍できる人材を養成するという点

設問回答率：96.7%



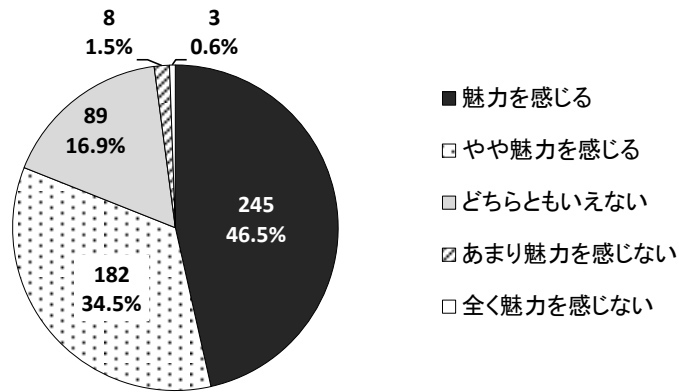
③ 作曲学科、器楽学科、声楽学科の3学科が1つの学科となることで、幅広く音楽を学ぶことができる点

設問回答率：96.7%



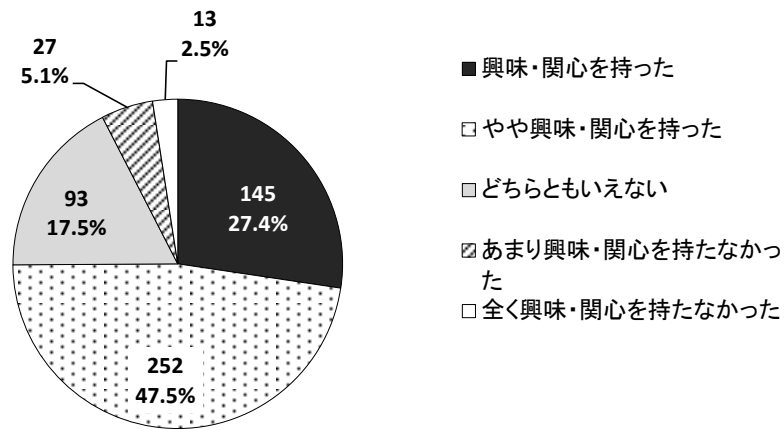
④ 作曲学科、器楽学科、声楽学科の3学科が1つの学科となることで、幅広いコースの学生と交流できる点

設問回答率：96.9%

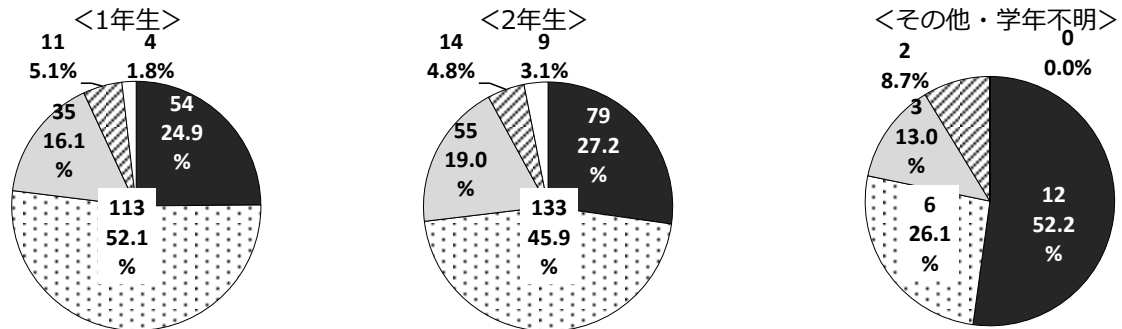


問7：「音楽芸術表現学科」について、興味・関心を持ちましたか。

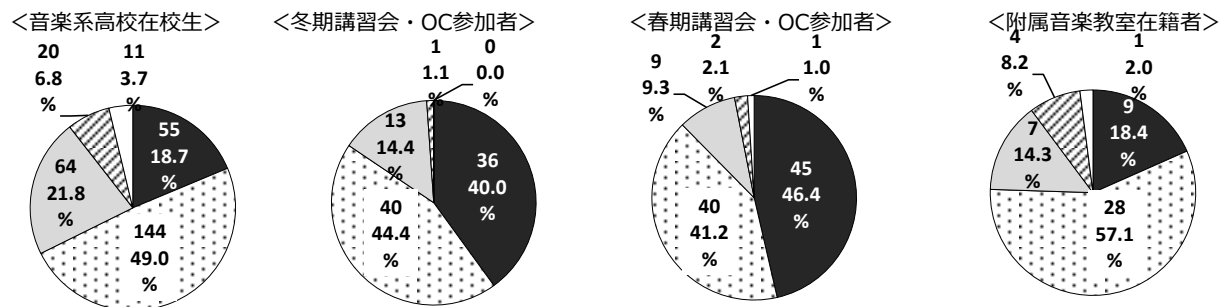
設問回答率：97.4%



【回答の学年別内訳】



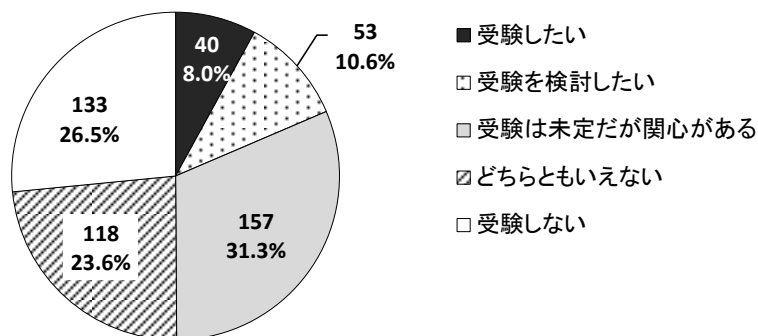
【回答の区分別内訳】



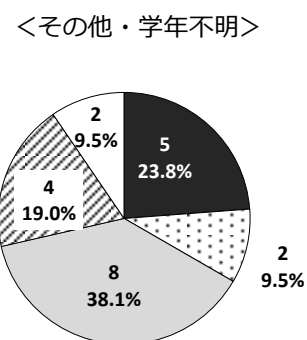
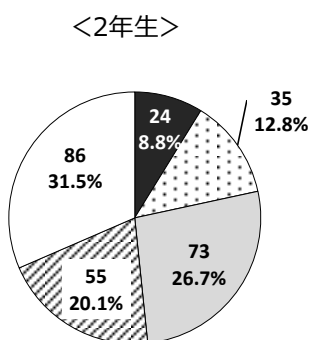
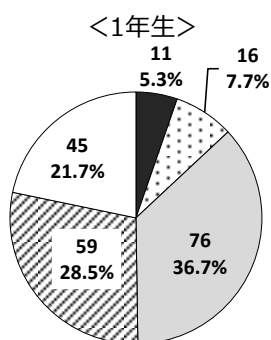


問8：(問7で1～3を選択した方) 現時点で、「音楽芸術表現学科」を受験したいと思いますか。

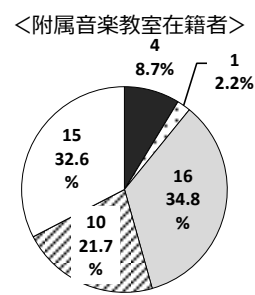
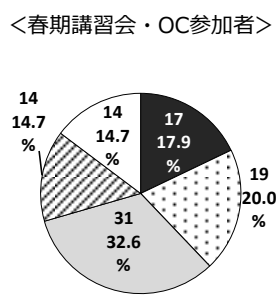
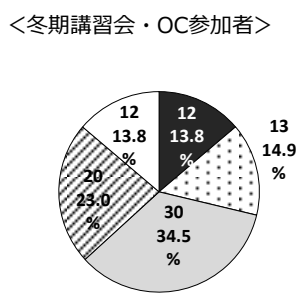
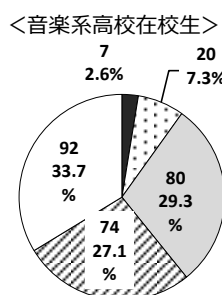
設問回答率：92.1%



【回答の学年別内訳】

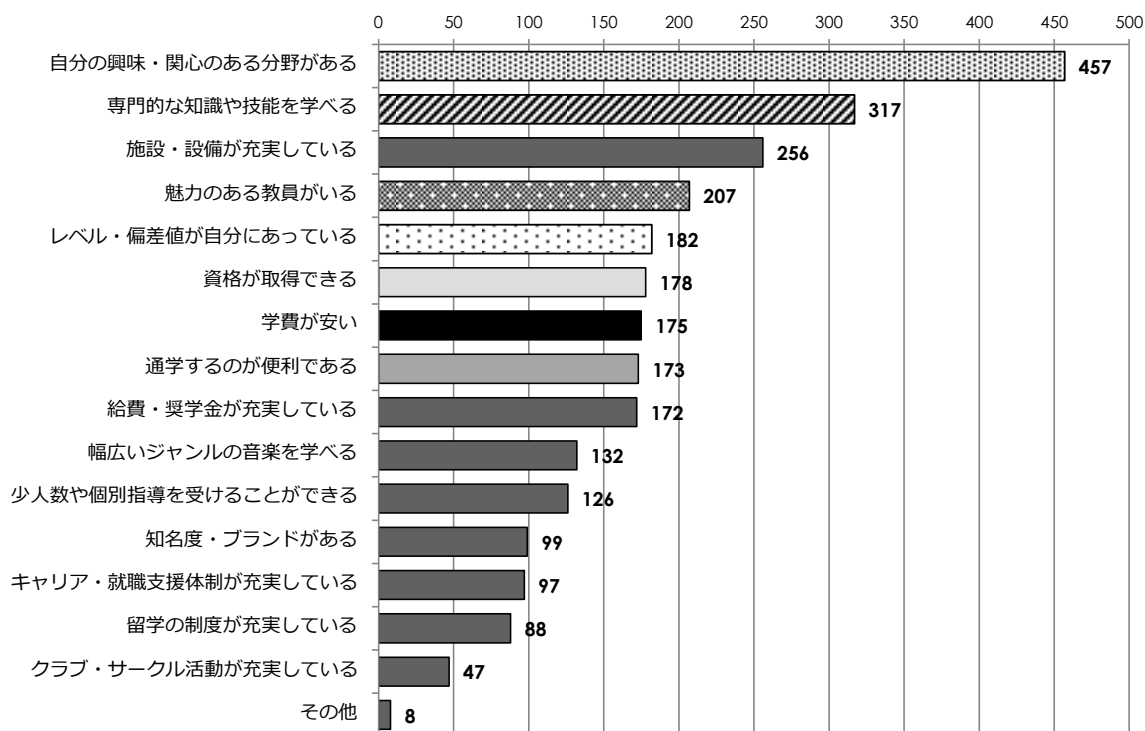


【回答の区分別内訳】



## 問9：進学を考える際に重視すること

設問回答率：96.7%



## 問10：その他、本学への要望や希望

- ・バンドクリニックにもぜひ参加してみたいです。
- ・またオープンキャンパスに来ようと思います。
- ・リペアなども学べたら、いいと思います。／リペアを学ぶ学科も作ってほしい。
- ・学生のアンサンブルを見てみたい（トロンボーンカルテットetc…）
- ・楽しく学ぶことができればいいなと思います。
- ・新しく出来るコースなど、とても楽しみです。

【都道府県別 入学者数推移(作曲学科・器楽学科・声楽学科)】

(単位:人)

地域	年度 県名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成24～平成28年度	
		入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	平均人数	割合(%)
北海道	01北海道	9	5	5	8	3	6.00	3.1%
東北	02青森県	3	3	0	1	1	1.60	0.8%
	03岩手県	3	1	4	1	4	2.60	1.3%
	04宮城県	4	5	6	8	3	5.20	2.7%
	05秋田県	1	1	1	2	2	1.40	0.7%
	06山形県	2	3	4	0	3	2.40	1.2%
	07福島県	1	1	6	3	4	3.00	1.5%
関東	08茨城県	5	7	4	5	0	4.20	2.2%
	09栃木県	2	5	1	1	2	2.20	1.1%
	10群馬県	7	4	2	2	3	3.60	1.9%
	11埼玉県	4	6	6	9	7	6.40	3.3%
	12千葉県	8	10	7	7	5	7.40	3.8%
	13東京都	34	44	17	26	24	29.00	15.0%
	14神奈川県	59	65	51	48	49	54.40	28.1%
北陸	15新潟県	6	5	8	7	2	5.60	2.9%
	16富山県	2	2	4	1	1	2.00	1.0%
	17石川県	3	2	1	2	0	1.60	0.8%
	18福井県	1	2	3	1	2	1.80	0.9%
中部	19山梨県	0	5	0	3	4	2.40	1.2%
	20長野県	4	6	7	11	13	8.20	4.2%
	21岐阜県	0	2	1	1	1	1.00	0.5%
	22静岡県	10	8	16	12	16	12.40	6.4%
	23愛知県	0	5	3	4	6	3.60	1.9%
近畿	24三重県	0	1	0	1	1	0.60	0.3%
	25滋賀県	1	0	1	0	0	0.40	0.2%
	26京都府	0	1	0	1	0	0.40	0.2%
	27大阪府	1	2	2	2	0	1.40	0.7%
	28兵庫県	1	0	0	2	3	1.20	0.6%
	29奈良県	0	0	0	0	0	0.00	0.0%
	30和歌山県	1	0	0	0	0	0.20	0.1%
中国	31鳥取県	1	1	1	0	0	0.60	0.3%
	32島根県	0	0	1	1	0	0.40	0.2%
	33岡山県	0	1	0	1	0	0.40	0.2%
	34広島県	1	1	1	0	1	0.80	0.4%
	35山口県	1	2	1	0	0	0.80	0.4%
四国	36徳島県	0	0	0	0	0	0.00	0.0%
	37香川県	1	1	3	0	0	1.00	0.5%
	38愛媛県	1	0	0	0	1	0.40	0.2%
	39高知県	2	1	0	1	3	1.40	0.7%
九州	40福岡県	2	4	4	3	3	3.20	1.7%
	41佐賀県	0	1	0	0	0	0.20	0.1%
	42長崎県	2	2	2	1	1	1.60	0.8%
	43熊本県	1	1	0	1	1	0.80	0.4%
	44大分県	0	0	0	1	2	0.60	0.3%
	45宮崎県	4	0	2	3	0	1.80	0.9%
46鹿児島県	2	4	4	2	3	3.00	1.5%	
沖縄	47沖縄県	4	3	6	4	5	4.40	2.3%
海外	99外国	0	0	0	0	1	0.20	0.1%
総計		194	223	185	187	180	193.80	100.0%

## 【音楽大学等学生納付金等一覧】

(単位:円)

NO	大学名	入学金	授業料	その他	その他費用の項目	入学年納入合計	在学期間中納入額合計
1	武蔵野音楽大学音楽学部 器楽学科、声楽学科、作曲学科	100,000	1,700,000	390,000	施設費	2,190,000	8,460,000
2	桐朋学園大学音楽学部 音楽学科	800,000	1,360,000	540,000	運営維持費、施設設備費	2,700,000	8,400,000
3	東京音楽大学音楽学部 音楽学科(作曲指揮専攻の一部コースを除く)	300,000	1,487,000	525,000	施設拡充費、施設維持費	2,312,000	8,348,000
4	大阪音楽大学音楽学部 音楽学科(ミュージックコミュニケーション専攻を除く)	200,000	1,630,000	400,000	施設費	2,230,000	8,320,000
5	国立音楽大学音楽学部 演奏・創作学科	50,000	1,250,000	817,000	施設設備費、維持運営費	2,117,000	8,318,000
6	神戸女学院大学音楽学部 音楽学科	200,000	1,371,000	643,000	教育充実費	2,214,000	8,256,000
7	昭和音楽大学音楽学部 音楽芸術表現学科	250,000	1,340,000	650,000	施設費	2,240,000	8,210,000
8	洗足学園音楽大学音楽学部 音楽学科	200,000	1,490,000	500,000	施設費	2,190,000	8,160,000
9	相愛大学音楽学部 音楽学科(音楽文化創造コースを除く)	300,000	1,200,000	487,400	施設費、諸費	1,987,400	7,717,400
10	名古屋芸術大学音楽学部 演奏学科	200,000	1,325,000	540,000	教育充実費、実習費	2,065,000	7,660,000
11	徳島文理大学音楽部 音楽学科	300,000	1,110,000	705,650	実習・図書費、施設費、協力費	2,115,650	7,562,600
12	名古屋音楽大学音楽学部 音楽学科(音楽教育コース、音楽療法コース、音楽ビジネスコースを除く)	200,000	1,300,000	500,000	教育充実費	2,000,000	7,400,000
13	フェリス女学院大学音楽学部 演奏学科	300,000	1,180,000	582,800	施設設備費、実習費、その他諸経費	2,062,800	7,351,200
14	大阪芸術大学芸術学部 音楽学科、演奏学科	330,000	1,100,000	650,000	施設設備費	2,080,000	7,330,000
15	くらしき作陽大学音楽学部 音楽学科(教育文化コース除く)	350,000	1,100,000	620,000	教育運営費	2,070,000	7,230,000
16	上野学園大学音楽学部 音楽学科(演奏家コース、グローバル教養コース除く)	200,000	1,345,000	526,300	一般維持費、施設設備資金、諸会費	2,071,300	7,180,000
17	玉川大学芸術学部 ハンフォニング・アーツ学科	250,000	1,175,000	525,200	教育研究諸料、施設設備金	1,950,200	7,050,800
18	東邦音楽大学音楽学部 音楽学科(演奏家コース、教職特設コース除く)	200,000	1,270,000	440,000	施設拡充費、演奏会等実習費	1,910,000	7,040,000
19	武庫川女子大学音楽学部 演奏学科	250,000	1,370,000	322,700	教育充実費、学生研修費、その他諸費	1,942,700	7,020,800
20	金城学院大学文学部 音楽芸術学科	200,000	1,250,000	415,800	施設設備費、諸会費	1,865,800	6,863,200
21	活水女子大学音楽学部 音楽学科(音楽文化コース、ポピュラー音楽コース除く)	250,000	950,000	692,000	施設設備費	1,892,000	6,818,000
22	エリザベト音楽大学音楽学部 音楽文化学科(幼児音楽教育専修除く)	300,000	1,300,000	300,000	施設維持費	1,900,000	6,700,000
23	宮城学院女子大学学芸学部 音楽科	370,000	947,000	604,400	施設費、実習費、諸会費	1,921,400	6,575,600
24	日本大学芸術学部 音楽学科	260,000	1,020,000	550,000	施設設備資金、実験実習料、後援会費、校友会費	1,830,000	6,540,000
25	同志社女子大学学芸学部 音楽学科(音楽文化専攻除く)	260,000	1,122,000	389,000	教育充実費、実験実習料、諸費等	1,771,000	6,304,000
26	尚美学園大学芸術情報学部 音楽表現学科、音楽応用学科	370,000	1,100,000	380,000	教育充実費	1,850,000	6,290,000
27	聖徳大学音楽学部 演奏学科、音楽総合学科	570,000	740,000	689,000	施設費、教育充実費	1,999,000	6,286,000
28	平成音楽大学音楽学部 音楽学科(こども学科除く)	200,000	1,000,000	500,000	施設費(維持管理費)	1,700,000	6,200,000
29	札幌大谷大学芸術学部 音楽学科	300,000	1,100,000	356,960	施設費、委託諸費	1,756,960	6,127,840
30	桜美林大学芸術文化学群 音楽専修	100,000	1,114,000	300,000	施設設備費、教育充実費	1,514,000	5,756,000
31	鹿児島国際大学国際文化学部 音楽学科	155,000	700,000	700,000	教育充実費	1,555,000	5,755,000
32	広島文化学園大学学芸学部 音楽学科	250,000	840,000	430,000	施設設備費等	1,520,000	5,330,000
参考	東京藝術大学	282,000	535,800			817,800	2,425,200

※在学期間中納入額合計順

※平成27年12月調べ

### 【3】大学教育に関して

#### 1) 大学教育に期待すること

##### <ポイント>

- ①チームで、問題や課題に取り組み解決できる能力の育成が、最も産業界が大学教育に期待している項目である。
- ②上記以外に、音楽関係企業では、専門的技術や知識の向上を大学に求めている。

全体と公的機関・芸術団体等、一般企業、音楽関連、卒業生の就職先グループの4つのジャンルを比較して分析した。～表15参照

全てのジャンルにおいて、「問題解決力や課題解決力を修得させて欲しい」と「チームを組ませて特定の課題に取り組む経験を積ませて欲しい」の2項目が、産業界が大学教育に期待する項目である。

「専門分野の知識をしっかりと修得させて欲しい」の項目は、音楽関連で他のジャンルに比べ、大学への要望が多い。

「語学力（特に英語）を高めて欲しい」については、現在のところ期待度は低いが、グローバル化を考えると、今後期待度が上がると考えられる。

[表15]大学教育に期待すること

	全体	公・芸	一般企業	音楽	就職先
専門分野の知識をしっかりと修得させて欲しい。	38.7	56.4	28.4	56.0	41.2
問題解決力や課題解決力を修得させて欲しい。	70.8	71.8	70.1	68.0	64.7
チームを組ませて特定の課題に取り組む経験を積ませて欲しい。	55.7	61.5	52.2	52.0	61.8
インターンシップ等で実社会の仕事体験をさせて欲しい。	31.1	28.2	32.8	28.0	35.3
職業意識向上に役立つプログラムを実施して欲しい。	43.4	35.9	47.8	32.0	35.3
プレゼンテーション等の機会をもっと持たせて欲しい。	24.5	20.5	26.9	24.0	20.6
語学力（特に英語）を高めて欲しい。	9.4	5.1	11.9	4.0	5.9
グローバル社会を意識した異文化理解に繋がる体験をさせて欲しい。	15.1	10.3	17.9	16.0	11.8

※数値は、選んだ企業・団体の比率、「公・芸」は公的機関・芸術団体等、「音楽」は音楽関連、「就職先」は卒業生の就職先グループ